

フランス 17 世紀演劇 テキスト・参考文献 (邦語文献)

戸口民也

情報更新 2022 年 11 月 8 日

テキスト

1. 全集・作品集

- ・『コルネイユ名作集』岩瀬孝ほか訳、白水社、1975 年。
舞台は夢 ル・シッド オラース シンナ ポリュークト 嘘つき男 ロドギユンヌ ニコメード
- ・『コルネイユ喜劇全集』持田坦訳、河出書房新社、1996 年。
メリットあるいは偽手紙 未亡人あるいは裏切られた裏切男 裁判所廊下あるいは恋仇の女友達
侍女 王宮広場あるいはとてつもない恋人 芝居の幻影 (=舞台は夢) 嘘つき男 続・嘘つき男
- ・『モリエール全集』(全 4 巻) 鈴木力衛訳、中央公論社、1973 年。
第 1 巻
飛び医者 ゴリ押し結婚 ドン・ジュアン 恋は医者 いやいやながら医者にされ 病は気から
第 2 巻
スガナレル 亭主学校 女房学校 タルチュフ シシリー人 アンフィトリヨン
第 3 巻
ジョルジュ・ダンダン 守銭奴 町人貴族 スカパンの悪だくみ
第 4 巻
粗忽者 才女気取り ル・ミザントロープ [=人間嫌い] 女学者
- ・『モリエール全集』(全 10 巻) ロジェ・ギシュメール、廣田昌義、秋山伸子共編、臨川書店、2000
-2003 年。
第 1 巻
相容れないものたちのバレエ : モンペリエにてコンティ大公御夫妻の御前で踊られたバレエ
ル・バルブイエの嫉妬
トンデモ医者
粗忽な男 : とちってばかり
クリスチヌ・ド・フランスに捧げた歌
モリエールと笑劇 / ロジェ・ギシュメール著
モリエールとイタリア喜劇 / ダニエラ・ダッラヴァッレ著
第 2 巻
恋人の喧嘩
滑稽な才女たち
スガナレル : あるいはコキュにされたと思った男
ドン・ガルシ・ド・ナヴァール : あるいは嫉妬深い王子
モリエールとプレシオジテ / ミシュリーヌ・ケナン著
第 3 巻
お嬢さんの学校
はた迷惑な人たち
お嫁さんの学校
国王陛下に捧げる感謝の詩
「お嫁さんの学校」批判

ヴェルサイユ即興劇

『ヴェルサイユ即興劇』と「役者たちの芝居」 / ロジェ・ギシュメール著

第4巻

強制結婚

エリード姫

タルチュフ：あるいはペテン師 / ロジェ・ギシュメール著

ご令息の死に際してラ・モット・ル・ヴァイエへ捧げるソネ / ロジェ・ギシュメール著

ドン・ジュアン：あるいは石像の宴

ノートルダム慈善信心協会の設立を記念する版画に付した詩

モリエールと宗教的偽善について / ロジェ・ギシュメール著

『ドン・ジュアン』の歴史と意義 / ロジェ・ギシュメール著

第5巻

恋こそ名医 / 廣田昌義著

人間嫌い

いやいやながら医者にされ

モリエールと医学 / パトリック・ダンドレー著

モリエールの『人間嫌い』について / 廣田昌義著

第6巻

メリセルト

パストラル・コミック

シチリア人：あるいは恋する絵描き

フランシュ=コンテを統治下に収められた国王陛下に捧げるソネ

アンフィトリオン

ポーシャン氏のバレエのメロディーに付した詩

モリエールと宮廷 / アラン・クプリ著

モリエールと宮廷バレエ / マリー=フランソワーズ・クリストゥー著

第7巻

ジョルジュ・ダンダン：あるいは、やり込められた夫

守銭奴 / クリスティアン・デルマス著

ヴァル・ド・グラス教会の天上画を称える詩 / マリー=クロード・カノヴァ=グリーン著

ブルソーニャク氏

モリエールのコメディ=バレエと他作品との関係 / 秋山伸子著

第8巻

豪勢な恋人たち

町人貴族

プシシェ

仕掛け芝居の流行について / クリスティアン・デルマス著

王の思惑, 劇作家モリエールの戦略 / マリー=クロード・カノヴァ=グリーン著

第9巻

スカパンの悪だくみ

エスカルバニャス伯爵夫人

美しいメロディーにのせた題韻詩

学者きどりの女たち

病は気から

「理屈っぽい人」(レゾヌール)、モリエール劇の筋書きを紡ぎ出す人物 / ロバート・マックブライド著 ; 秋山伸子訳

モリエール時代の舞台音楽 / ジョルジー・デュロゾワール著 ; 秋山伸子訳

第10巻

明治・大正期のモリエール劇翻案・翻訳関係資料 / 廣田昌義構成・解説

モリエール批評の流れについて / ノエル・ピーコック著 ; 秋山伸子訳

フランスの資料：伝記, 及びモリエール劇団の公演記録 / 秋山伸子構成・解説・翻訳

- ・『モリエール傑作戯曲選集 1』、柴田耕太郎訳、鳥影社、2018年。
女房学校 スカパンの悪だくみ 守銭奴 タルチュフ
- ・『モリエール傑作戯曲選集 2』、柴田耕太郎訳、鳥影社、2020年。
ドン・ジュアン 才女気どり 嫌々ながら医者にされ 人間嫌い
- ・『モリエール傑作戯曲選集 3』、柴田耕太郎訳、鳥影社、2020年。
亭主学校 気で病む男 町人貴族 跳び医者
- ・『モリエール』鈴木力衛編、筑摩書房（世界古典文学全集:47）、1965年。
飛び医者 才女気取り 亭主学校 女房学校 タルチュフ ドン・ジュアン 孤客[=人間嫌い]
いやいやながら医者にされ ジョルジュ・ダンダン 守銭奴 町人貴族 スカパンの悪だくみ
女学者
- ・『ラシーヌ戯曲全集』（全2巻）伊吹武彦、佐藤朔編集、人文書院、1964-65年。
第1巻
ラ・テバインド
アレクサンドル大王
アンドロマック
裁判きちがい
ブリタニキウス
ベレニス
第2巻
バジャゼ
ミトリダート
イフィジェニー
フェードル
エステル
アタリー
- ・『ラシーヌ』鈴木力衛編、筑摩書房(世界古典文学全集:48)、1965年。
(ラシーヌのすべての戯曲が納められている。作品名は上の『ラシーヌ戯曲全集』参照)
- ・『ラシーヌ戯曲全集 II』渡辺守章訳、白水社、1979年。(II のみ刊行)
ブリタニキウス
ベレニス
バジャゼ
ミトリダート
- ・『古典劇集 I』筑摩書房（世界文学大系 14）、1961年。
ル・シッド（コルネイユ 秋山晴夫訳）
タルチュフ（モリエール 鈴木力衛訳）
孤客 [=人間嫌い]（モリエール 辰野隆訳）
フェードル（ラシーヌ 二宮フサ訳）
- ・『コルネイユ ラシーヌ モリエール』講談社（世界文学全集 11）、1978年。
コルネイユ：メデ（戸張智雄訳）、オラース（戸張智雄・橋本能訳）
ラシーヌ：アンドロマック、ベレニス、イフィジェニー（以上戸張規子訳）、フェードル（戸張智雄訳）
モリエール：女房学校、ドン・ジュアン、スカパンの悪だくみ（以上鈴木康司訳）
- ・『フランス十七世紀演劇集 喜劇』鈴木康司、伊藤洋、富田高嗣訳、中央大学出版部、2010年。

ジャン・デマレ・ド・サン＝ソルラン『妄想に囚われた人々』（伊藤洋訳）
クロード・ド・レトワール『盗っ人たちの策略』（鈴木康司訳）
ポール・スカロン『ドン・ジャフェ・ダルメニー』（富田高嗣訳）
ジャン＝フランソワ・ルニャール『包括受遺者』（鈴木康司訳）

- ・『フランス十七世紀演劇集 悲劇』伊藤洋、友谷知己、橋本能、浅谷真弓、皆吉郷平、千川哲生訳、中央大学出版部、2011年。
アレクサンドル・アルディ『セダズ、または汚された歓待』（伊藤洋・友谷知己訳）
トリスタン・レルミット『マリヤヌ』（橋本能訳）
ジャン・ロトルー『真説聖ジュネ』（橋本能・浅谷真弓訳）
トマ・コルネイユ『ティモクラート』（皆吉郷平・千川哲生訳）
- ・『フランス十七世紀演劇集 悲喜劇・田園劇』伊藤洋、皆吉郷平、橋本能、富田高嗣、鈴木美穂、戸口民也、野池恵子訳、中央大学出版部、2015年。
ジャン・メレ『シルヴィ』田園悲喜劇（皆吉郷平・橋本能訳）
ジョルジュ・ド・スキュデリー『変装の王子』悲喜劇（富田高嗣・橋本能訳）
ジャン・ロトルー『ヴァンセスラス』悲喜劇（伊藤洋・鈴木美穂訳）
フィリップ・キノー『アマラゾント』悲喜劇（戸口民也・野池恵子訳）

2. 個別作品

- ・コルネイユ『嘘つき男・舞台は夢』（岩瀬孝、井村順一訳）岩波文庫、2001年。
- ・コルネイユ『ル・シッド』鈴木暁訳、大学書林、2008年。
- ・モリエール『タルチュフ』鈴木力衛訳、岩波文庫。
- ・モリエール『人間ざらい』（内藤 濯 訳）新潮文庫、1961年。
- ・モリエール『孤客：ミザントロップ、改版』辰野隆訳、岩波文庫、1976年。
- ・モリエール『守銭奴、改版』鈴木力衛訳、岩波文庫、1973年。
- ・モリエール『スカパンの悪だくみ』鈴木力衛訳、岩波文庫、1953年。
- ・モリエール『タルチュフ、改版』鈴木力衛訳、岩波文庫、1974年。
- ・モリエール『ドン・ジュアン、改版』鈴木力衛訳、岩波文庫、1975年。
- ・モリエール『ドン・ジュアン：石像の宴』鈴木力衛訳、岩波文庫、1952年。
- ・ラシーヌ『フェードル』内藤濯訳、岩波文庫、1958年。
- ・ラシーヌ『フェードル／アンドロマック』渡辺守章訳、岩波文庫、1993年。
- ・ラシーヌ『ブリタニキウス／ベレニス』渡辺守章訳、岩波文庫、2008年。

参考文献

1. フランス 17 世紀演劇：事典、演劇史

- ・『フランス 17 世紀演劇事典』オディール・デュスッド、伊藤洋監修、エイコス：17 世紀フランス演劇研究会編、中央公論新社、2011年。
- ・アダン（アントワヌ）『フランス古典劇』今野一雄訳、白水社、1971年。
- ・岩瀬孝・佐藤実枝・伊藤洋『フランス演劇史概説』（新装版）、早稲田大学出版部、1999年。
- ・小場瀬卓三『フランス古典喜劇成立史 モリエール研究』法政大学出版局、1970年。
- ・ギシュメール（ロジェ）『フランス古典喜劇』伊藤洋訳、白水社（文庫クセジュ）、1999年。
- ・中央大学人文科学研究所編『混沌と秩序 フランス十七世紀演劇の諸相』中央大学出版部、2014年。
第一章 演劇ジャンル変更の問題 — 『テュロス国とシドン国』の場合（伊藤 洋）
第二章 デュルヴァルの劇作法 — 一六二八年から一六三二年の演劇論争を越えて（皆吉郷平）

第三章 マウロの舞台装置を通して見る一六二〇年代後半から一六三〇年代前半までの悲喜劇
(浅谷真弓)

第四章 透視図法背景とオペラの舞台装置家たち (橋本能)

第五章 劇中劇の世界 (鈴木美穂)

第六章 十七世紀フランス演劇におけるスペイン物の系譜 (富田高嗣)

第七章 十七世紀フランス喜劇と古典ラテン喜劇 (榎本恵子)

第八章 フランス十七世紀女性劇作家たち (野池恵子)

第九章 教会と演劇 (戸口民也)

第十章 古典主義喜劇の傑作と言われる『タルチュフ』が投げかける諸問題 (鈴木康司)

- ・藤井康生『幻想劇場 フランス・バロック演劇の宇宙』平凡社、1988年。
- ・藤井康生『フランス・バロック演劇研究』平凡社、1995年。
- ・『フランス文学講座 4 演劇』大修館書店、1977年。
- ・矢橋透『劇場としての世界 フランス古典主義演劇再考』水声社、1996年。

2. フランス 17 世紀演劇：個別研究、文学史

- ・赤木富美子『フランス演劇から見た女性の世紀』大阪大学出版会、1996年。
- ・アポストリデス (J.-M.)『機械としての王』水林章訳、みすず書房、1996年。
- ・アポストリデス (J.-M.)『犠牲に供された君主：ルイ十四世治下の演劇と政治』矢橋透訳、平凡社(テオリア叢書)、1997年。
- ・岩瀬孝『古典劇と前衛劇 フランスと日本』朝文社、1991年。
- ・オービニャック師『演劇作法』戸張智雄訳、中央大学出版部、1997年。
- ・風間研『幕間のパリ モリエールはわれらの同時代人』NTT出版、1995年。
- ・鈴木康司『下僕像の変遷に基づく十七世紀フランス喜劇史』大修館書店、1979年。
- ・ズベール (ロジェ)『十七世紀フランス文学入門』原田佳彦訳、白水社(文庫クセジュ)、2010年。
- ・中央大学人文科学研究所編『混沌と秩序 フランス十七世紀演劇の諸相』中央大学出版部、2014年。
- ・橋本能『アルディからラシーヌへ フランス 17 世紀悲劇作品総覧』駿河台出版社、2022年。
- ・ビエ (クリスティアン)、トリオー (クリストフ)『演劇学の教科書』佐伯隆幸監修、国書刊行会、2009年。
- ・ベニシュー (ポール)『偉大な世紀のモラル フランス古典主義文学における英雄的世界像とその解体』朝倉剛・羽賀賢二訳、法政大学出版局、1993年。
- ・渡辺守章、塩川徹也『フランスの文学 17 世紀から現代まで』日本放送出版協会、1998年。

3. フランス 17 世紀という時代について

- ・アポストリデス (J.-M.)『機械としての王』水林章訳、みすず書房、1996年。
- ・アポストリデス (J.-M.)『犠牲に供された君主 ルイ十四世治下の演劇と政治』矢橋透訳、平凡社(テオリア叢書)、1997年。
- ・井村順一『美しい言葉づかい — フランス人の表現の技術』中央公論新社(中公新書)、2008年。
- ・ヴィアラ (アラン)『作家の誕生』塩川徹也監訳、藤原書店、2005年。
- ・エリオット (J. H.)『リシュリューとオリバーレス — 十七世紀ヨーロッパの抗争』藤田一成訳、岩波書店、1988年。
- ・小場瀬卓三『光と綾 フランス文学の世界』法政大学出版局、1969年。
- ・小場瀬卓三『バロックと古典主義 十七世紀フランス文学史の諸問題』白水社、1978年。
- ・金沢誠『王権と貴族の宴』河出書房新社(生活の世界歴史8)、1976年。
- ・デュロン (クロード)『大世紀を支えた女たち』伊藤洋・野池恵子訳、白水社、1991年。
- ・萩原茂久『歴史・情念・心理 17 世紀フランス文学論』駿河台出版、1997年。
- ・長谷川輝夫『聖なる王権ブルボン家』講談社(講談社選書メチエ)、2002年。
- ・福井憲彦編『フランス史』山川出版社(新版世界各国史12)、2001年。

- ・ポーサン (フィリップ) 『ヴェルサイユの詩学 バロックとは何か』藤井康生訳、平凡社、1986年。
- ・前川貞次郎 『絶対王政の時代』講談社 (講談社現代新書 新書西洋史)、1973年。
- ・マンドルー (ロベール) 『フランス文化史 II』人文書院、1969年。
- ・メティヴィエ (ユベール) 『アンシアン・レジーム フランス絶対主義の政治と社会』井上堯裕訳、白水社 (文庫クセジュ)、1965年。
- ・ルヴロン (ジャック) 『ヴェルサイユの春秋』金沢誠編訳、白水社、1987年。
- ・ルーセ (ジャン) 『フランスバロック期の文学』伊東広太等訳、筑摩書房 (筑摩叢書)、1970年。

4. フランスの17世紀の劇作家について

- ・中央大学人文科学研究所編 『フランスの17世紀の劇作家たち』中央大学出版部、2011年。
 - 序章 当時の上演について (橋本能)
 - 第一章 十七世紀の劇団と悲劇役者たち (伊藤洋)
 - 第二章 『六十年以上前からのフランス・イタリア笑劇役者絵図』 (鈴木康司)
 - 第三章 アレクサンドル・アルディ — 欲望の演劇 (友谷知己)
 - 第四章 ジャン・メレ — 演劇の改革者 (皆吉郷平)
 - 第五章 ジャン・ロトルー — 両義性を生きた劇作家 (鈴木美穂)
 - 第六章 ジョルシュ・ド・スキュデリー — バロックの騎士 (浅谷真弓)
 - 第七章 デマレ・ド・サン＝ソルラン — リシュリユール時代の劇作品 (伊藤洋)
 - 第八章 トリスタン・レルミット — 夢と孤独の作家 (野池恵子)
 - 第九章 ポール・スカロン — スペイン・コメディアにこだわり続けた劇作家 (富田高嗣)
 - 第十章 フィリップ・キノー — サロンと栄達 (橋本能)
 - 第十一章 ルニヤールとルサーージュ — 世紀末の下克上 (鈴木康司)

コルネイユ

- ・ベニシュー (ポール) 『偉大な世紀のモラル フランス古典主義文学における英雄的世界像とその解体』朝倉剛・羽賀賢二訳、法政大学出版局、1993年。
- ・村瀬延哉 『コルネイユの演劇またはリシュリユール時代』駿河台出版、1995年。
- ・千川哲生 『論争家コルネイユ フランス古典悲劇と演劇理論』早稲田大学出版部、2009年。
- ・梶谷二郎 『Pierre Corneille の作品に見られるキリスト教思想 — その演劇理論と2人のオランダ人演劇理論家』大阪教育図書、2009年。
- ・小倉博孝編 『コルネイユの劇世界』上智大学出版、2010年。

モリエール

- ・アウエルバッハ (E.) 「偽信者」「中断された晚餐」(アウエルバッハ『ミメーシス・下』篠田一士・川村二郎訳、筑摩書房 [筑摩叢書]、1967年、pp.112-186)。
- ・アダン (アントワヌ) 『フランス古典劇』今野一雄訳、白水社、1971年。
- ・岩瀬孝 『古典劇と前衛劇 フランスと日本』朝文社、1991年。
- ・小場瀬卓三 『光と綾 フランス文学の世界』法政大学出版局、1969年。
- ・小場瀬卓三 『フランス古典喜劇成立史 モリエール研究』法政大学出版局、1970年。
- ・小場瀬卓三 『バロックと古典主義 十七世紀フランス文学史の諸問題』白水社、1978年。
- ・風間研 『幕間のパリ モリエールはわれらの同時代人』NTT出版、1995年。
- ・ギシュメール (ロジェ) 『フランス古典喜劇』伊藤洋訳、白水社、1999年。
- ・小島達雄 『モリエールと「状況のなかの演劇」』、関西学院大学出版会、2001年。
- ・シャンドン・G 『モリエール物語』井村順一訳、白水社、1967年。
- ・鈴木康司 『下僕像の変遷に基づく十七世紀フランス喜劇史』大修館書店、1979年。
- ・鈴木康司 『わが名はモリエール』大修館書店、1999年。
- ・徳村佑市 『モリエールと宗教』欧明社、1993年。
- ・パニョル (マルセル) 『笑いについて』鈴木力衛訳、岩波書店(岩波新書)、1953年。

- ・『フランス文学講座 4 演劇』大修館書店、1977年。
- ・ベニシュー（ポール）『偉大な世紀のモラル フランス古典主義文学における英雄的世界像とその解体』朝倉剛・羽賀賢二訳、法政大学出版局、1993年。
- ・ベルクソン『笑い』林達夫訳、岩波書店(岩波文庫)、1938年。
- ・水林章『ドン・ジュアンの埋葬 モリエール『ドン・ジュアン』における歴史と社会』、山川出版社、1996年。
- ・モーロン（シャルル）『喜劇のプシコクリティック』越坂部則道訳、国文社、1984年。
- ・矢橋透『劇場としての世界 フランス古典主義演劇再考』水声社、1996年。
- ・矢橋透「仮想現実としての世界劇場？— モリエール『ジョルジュ・ダンダン』」（磯野守彦ほか『世界は劇場/人生は夢』水声社、2001年、pp.69-92）。

ラシーヌ

- ・小田桐光隆編『ラシーヌ劇の神話力』Sophia University Press 上智大学、2001年。
- ・金光仁三郎『ラシーヌの悲劇』中央大学出版部(中央大学学術図書:17)、1988年。
- ・ジロドゥ『ラシーヌ論』岩瀬孝訳（岩瀬孝『古典劇と前衛劇：フランスと日本』朝文社、1991年）。
- ・田中敬次郎『ラシーヌ研究』社会思想社(社会思想叢書)、1972年。
- ・ニデル（アラン）『ラシーヌと古典悲劇』今野一夫訳、白水社（文庫クセジュ）、1982年。
- ・バルト（ロラン）『ラシーヌ論』渡辺守章訳、みすず書房、2006年。
- ・ベニシュー（ポール）『偉大な世紀のモラル フランス古典主義文学における英雄的世界像とその解体』朝倉剛・羽賀賢二訳、法政大学出版局、1993年。
- ・矢橋透『劇場としての世界 フランス古典主義演劇再考』水声社、1996年。
- ・山中知子『ラシーヌ、二つの顔』人文書院、2005年。
- ・渡辺守章編著『「フェードル」の軌跡』新書館、1988年。

5. 俳優・劇団・劇場・上演

- ・伊藤洋『宮廷バレエとバロック劇』早稲田大学出版部、2004年。
- ・小場瀬卓三『フランス古典喜劇成立史 モリエール研究』法政大学出版局、1970年。
- ・オービニャック師『演劇作法』戸張智雄訳、中央大学出版部、1997年。
- ・鈴木康司『下僕像の変遷に基づく十七世紀フランス喜劇史』大修館書店、1979年。
- ・鈴木康司『わが名はモリエール』大修館書店、1999年。
- ・中央大学人文科学研究所編『フランスの17世紀の劇作家たち』中央大学出版部、2011年。
- ・デュロン（クロード）『大世紀を支えた女たち』伊藤洋・野池恵子訳、白水社、1991年。
- ・ドゥヴォー（パトリック）『コメディ＝フランセーズ』伊藤洋訳、白水社（文庫クセジュ）、1995年。
- ・戸張規子『フランス悲劇女優の誕生：パリ・宮廷の華』人文書院、1998年。
- ・富田隆嗣・戸口民也・橋本能『フランス十七世紀の舞台装置 — 『マウロの覚書』注解』駿河台出版社、2019年。
- ・橋本能『遠近法と仕掛け芝居 — 十七世紀フランスのセノグラフィ』中央大学出版部、2000年。